

浜高だより

令和 8 年 2 月 27 日 (金)
編集発行
北海道浜頓別高等学校
北海道浜頓別高等学校 P T A
印刷 (有) 天北印刷工業



卒業生の皆様へ

保護者と教職員の会 会長 山口 亮

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様におかれましても3年間、PTA活動等ご理解ご協力頂きましたこと心より感謝申し上げますとともに、お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。また、校長先生をはじめ教職員の皆様におかれましては、生徒たちが3年間という短い高校生活をより充実したものになるようにと、ご指導頂きましたこと保護者を代表して心よりお礼申し上げます。また3町村をはじめ、地域の皆様や関係各位の皆様におかれましても、ご理解ご協力、そして多大なるご支援を頂いておりますこと心よりお礼申し上げます。

さて、卒業を迎えるにあたり皆さんはどのような心境でしょうか。仲間との別れを惜しみながらも、春からの新生活に対する不安や希望など抱いている想いは様々なことでしょう。18歳になった皆さんはこれから一人の成人として見られます。そして今まで以上の経験をすることにもなります。これからの皆さんは何事も自分の力で道を切り拓いていくことになり、沢山の岐路に立たされることでしょう。成功することもあれば失敗することもあります。むしろ失敗することのほうが多いのではないのでしょうか。ただ、失敗したからと言って悔やむことはありません。そんな時は一歩後ろに下がって別の方法を考えること。周囲の協力を求めること。色々な形で自分が目指しているところに遠回りをしてでも到達できることが大事だと私は思います。高校生活の3年間で経験したこと、いや、生まれてからの18年間に周りから教わり経験したこと、培ったスキルがこれからの経験に大いに役立つことと想っています。自分自身を大きく成長させるためにもスキルを活用し、頼もしい姿を見せてほしいと切に願っております。

最後に私いつも卒業生に伝えていることですが、皆さんが今こうして無事に高校を卒業し新たな門出を迎えることができるのは自分一人の力だけではなく、皆さんを支えてきてくれた人たち、ご両親や先生方は勿論、先輩や後輩、友達等、皆さんが関わってきた多くの人がいたからです。その人たちに感謝の気持ちを忘れずに、そしてこれから皆さんと出会い、支えてくれるであろう人たちに「ありがとう」という気持ちを忘れずに伝えていってください。今後の皆さんの活躍を期待しています。

卒業生の皆様の卒業と新たな門出をお祝いし、皆様のご健闘とご多幸、ならびに浜頓別高校の更なる発展を祈念申し上げます。

3年間の思い出

1年生の時



入学式



地域巡検



浜高祭



対面式



授業



強歩遠足



ボランティア



立会演説会



校長 福本典子

強くしなやかな心を持って…

1月の初めに国語の研修会で作家の角田光代さんの講演を聞く機会があった。その情報を得て、最近彼女の作品を読んでいたことに気づき、講演まで最近の作品を読んでもよいと思いついた。角田光代さんと言えば、直木賞を受賞した『対岸の彼女』映画化された大きな話題となった『八日目の蟬』が有名だ。かつてそれらの作品に感動した覚えがある。そこで年末年始に『神さまショッピング』など5冊を立て続けに読んだ。そして、彼女が女性の心の機微を描くことに長けていることを改めて実感するとともに、思い悩む心の果てしなさを思った。

最新刊の『神さまショッピング』は表題作を含めた短編集で、テーマは神様に救いを求める女性。登場人物は各々救いを求めて世界の神様の元を訪れる。その願いは漠然としたもの、社会的に許されないもの、誰にも共感されないものなど様々だ。困った時、神様にすがりたくなる気持ちは共感できるし、いろいろな場所で神様にたつぷりお願い事をした経験は多くの人があろう。しかし、神様は何も拒絶しないが、その一方で何も解決はしてくれない。治療や診断に満足いかず、次々と医者を変えることを「ドクターショッピング」というそうだ。この話の主人公は自分の行為を「神さまショッピング」だと評する。自分の納得できる神様を探して彷徨っているからだ。結局、自分が抱える悩みやもやもやした感情を昇華するのは自分しかないということではないだろうか。

現代はストレスが多い社会だと言われる。また、ストレスが体調不良など深刻な事態を引き起こすこともある。しかし、何をストレスと感じるか人によって違う。角田作品の女性達は様々なストレスを抱えている。自分の家庭環境に、自分の言った言葉に、社交的に振る舞えない自分に、自分を理解してくれない夫に、羨むような暮らしをする友人に、期待通りの行動をしない子どもに。中には解決しようのない不満もある。しかし、そのストレスの主な原因となる人間関係の問題は、学校・職場・近所付き合い・ママ友など、場面を変え尽きることにはなさそうだ。

解決が必要な問題は周囲の協力を得ながら解決を目指すべきだが、そうでない場合には、自分の心をコントロールしなければならぬ。一時期「折れない心」という言葉をよく聞いた。「折れない心」はスポーツばかりでなく日常を生きる上でも必要だ。そのためには、心の強さとしなやかさが大切ではないだろうか。困難や理不尽なことに直面してもそれを乗り越える強さと、劇的に変化する社会や多様な人々と柔軟に関わるしなやかさを持つて、逞しく生きてほしい。3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。新しい世界でも強くしなやかな心で、元気に活躍することを心から祈っています。

2年生の時



球技大会



企業説明会



見学旅行



ボランティア



インターンシップ



浜高祭



立会演説会



個性を力に！

3年A組 担任
林 田 保 輝

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆さま、地域の皆さまの温かな支えがあってこそ、卒業を迎えることができ、心より感謝申し上げます。

私は皆さんの入学と同時に浜頓別高校へ着任しましたが、学年団として関わったのは今年度が初めてでした。皆さんは高校生活の中で担任が毎年交代するという、決して当たり前ではない経験をしてきました。環境の変化により、不安になる場面も多かったと思いますが、皆さんはクラスを自分たちの手で創り上げ、ポジティブに進み続けていたように感じます。辛いことばかりではないとわかっているからこそ、皆さんの鍛えられたレジリエンスはこれからの人生において、大きな強みとなります。

3年生から担任となった関西人。鹿、熊、タヌキ、キツネ、雪、氷点下には悩まされていますが、皆さんに対策を聞き、少しは成長しました。担任として、私らしく着飾らず、ともに進路に悩み、将来と向き合い、学校行事に全力で取り組んだ時間は僅かではありましたが、刺激的な日々でした。仲間と支え合いながら成長し、わからないことや探しているものを一つずつ「こたえあわせ」していく姿がとてもアタタイプで、一人の教師として大きな学びを得ることができました。

これから先、皆さんはそれぞれ異なるステージへ進みます。皆さんには高校生活で培った、変化に対応する力や多様な人と関わる力があります。息が詰まるような日々や正解のない選択を迫られる瞬間、思い通りに描けない未来に直面した際は、正面から受け止め、形容しがたい物事に対して自ら考え行動するイニシアティブを大切にしてください。

結びとなりますが、これまで生徒たちを温かく支えてくださった保護者の皆さま、地域の皆さまに改めて感謝申し上げます。この浜頓別町・中頓別町・猿払村から浜頓別高校を卒業した29名が、それぞれの場所で個性を力に輝き続けることを心より願っています。

3年生の時



授 業



昼休校内放送



高体連壮行会



浜 高 祭



キャリア卒業研究



体育大会



思「ヨウ」「挑戦」する「の」の大切さ

3年A組 秋 田 華 穂

あつという間には過ぎ、3度目の冬がやってきました。2年間先輩方を送り出した身として、後輩に送り出してもらおう側に立つというのは、少しむずがゆい気分です。浜頓別高校に入学してからのことを振り返ると、様々なことを経験し、立ち止まる暇もないほど目まぐるしく時が過ぎました。私の記憶に大きく残っているのは浜高祭です。

私は1年生のときにクラス装飾、2年生・3年生のときにファッションコンテストを担当しました。中学生の頃と比べ、自分たちの行動範囲やできることが一気に増え、最初は戸惑うことばかりでしたが、浜高祭の準備を経験した先輩や先生方に教えていただき、同級生と協力しながら形にしていけることができました。1年生の浜高祭で感覚を掴み、クラスの連帯感も強まったように思います。

2年生のときは初めての衣装製作で、すべてが手探りでした。少し特殊な作りの衣装であったため、うまくいかないことも多く何度も頭を悩ませましたが、完成したときの達成感もひとしおでした。これが3年生での自信に繋がったと感じています。

3年生のときは今までの集大成として、これまでの経験を十分に活かし、より良いものを目指して試行錯誤を重ねました。難易度の高い衣装への挑戦でしたが、細部まで工夫を凝らして作り込み、本物に近づくように再現できました。休日にも学校に集まって作業を行い、たかさんの人が衣装完成のために奔走してくれたおかげで、最高の状態で衣装をお披露目することができたと思います。

3年間を振り返ると、浜高祭以外にも数え切れないほどの思い出がありますが、仲間と支え合いながら過ごした日々は、全てかけがえのないものとして、これからの私たちの支えになると確信しています。1・2年生の皆さんも、残りの高校生活で是非何かに「挑戦」してみてください。誰かと何かを作り上げる、一人で何かを始めてみる。その経験は、どれも自分だけの糧になってくれるはずです。

高校生活の思い出と成長

3年A組 玉置 琉偉

入学したばかりの頃、私たちは同じ教室に集まったものの、まだお互いをよく知らず、どこか緊張した空気の中で高校生活を始めました。新しい環境への期待と不安が入り混じり、この3年間でどのような時間になるのか、はつきりと想像できていなかったと思います。

日々の授業や休み時間、何気ない会話を重ねるうちに、少しずつ距離が縮まり、教室は自然と笑顔のあふれる場所になっていました。テスト前には互いに励まし合い、行事の準備では意見を出し合いながら、目標に向かって協力しました。思うようにいかず悩んだことや、意見の違いに戸惑ったこともありましたが、その経験があったからこそ、より深く理解し合える関係を築くことができたのだと感じます。

浜高祭や体育大会、球技大会、そして見学旅行といった学校行事は、私たちにとって忘れられない思い出です。準備期間の忙しさや本番の緊張感、終わった後の達成感、このクラスでなければ味わえなかったものです。また、特別な出来事のみならず、普段の何気ない日常も、今振り返ると大切な思い出として、とても心に残っています。

高校生活は楽しいことばかりではなく、悩みや不安を抱えることもありました。それでも、同じ時間を過ごす仲間が存在が支えとなり、前向きに進むことができた場面も多かったです。互いに支え合い、認め合いながら過ごした日々は、確かに私を成長させてくれました。

3年間は長いようで、振り返ってみるとあっという間でした。これからそれぞれ別々の道を歩むこととなりますが、このクラスで過ごした時間や築いた絆が色褪せることはありません。この3年間の経験を胸に、それぞれの未来に向かって進んでいきたいと思えます。

このクラスでこのメンバーに出会えたこと、共に過ごせたことに心から感謝し、ここでの思い出を大切にしながら、新たな一歩を踏み出します。最後に先生方やクラスの皆さん、3年間本当にありがとうございました。



先輩方の背中を見て学んだこと

生徒会長 2年A組 庄司 晁悠

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

先輩方と過ごした時間は私にとって刺激や学びになりました。部活動での声かけや行事に向けて一つになる姿は先輩方としてのお手本そのもので、私はいつも先輩方の背中を見ていました。学校祭では意見がぶつかり、なかなか思うようにいかないこともあったと思います。そんななかで、みんなの意見をまとめて作り上げた物はどれも完成度が高く、出し物の表面では見えない先輩方の裏の努力を私たちは間違いなく感じ取ることができました。ダンスやライブでも、場の雰囲気を感じ取り盛り上げ引張ってくださいのおかげで全校生徒が楽しかったと思える学校祭になりました。

体育大会や球技大会では、全力で応援する姿や、仲間と声をかけ合い全力で試合に臨む姿が印象的で、競技が終わったあとの仲間を思う、「おつかれ」や「よく頑張った」といった熱い言葉には感動しました。また、どんなに疲れている時でも先輩方は私に「おつかれ!」といった言葉をくださいました。先輩方にとっては何気ない挨拶かもしれませんが、私はその一言でたくさん救われてきました。卒業後もどうか忘れないでください。その一言で救われる人が必ずいます。

先輩方が教えてくださったことは、どれも人を助けることにつながります。先輩方が築き上げてきた学校の雰囲気や人を思いやる心は決して忘れません。

私たちはその精神を受け継いで、日々の学校生活に真摯に向き合っていきます。

最後に、それぞれの道に進まれる卒業生の皆さんの未来が、希望に溢れた輝かしい未来になることを祈っています。そして、この高校生活で培った経験や仲間との絆が、これからの人生の支えになることを信じています。

改めてご卒業おめでとうございます。

〒098-5738
 枝幸郡浜頓別町緑ヶ丘5-15
 Tel (01634) 2-2109
 Fax (01634) 2-4304

浜高HP

浜高 Instagram

②HAMATONBETSU_SEITOKAI